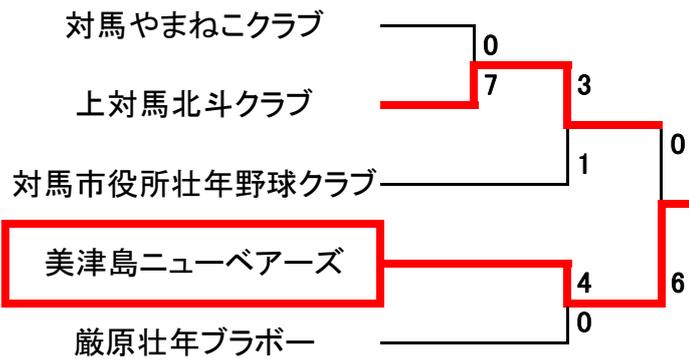


第7回 日本マスターズ軟式野球 対馬予選会

会期:平成23年4月17日(日)

会場:上対馬野球場



表彰選手	最優秀選手賞	井 浩 (美津島)
	(準決勝、決勝の2試合を完封勝利)	
	優秀選手賞	小島 一輝 (美津島)
	(決勝戦の3安打すべてが得点に絡む)	
	敢闘賞	中庭 八寿彦 (美津島)
(決勝戦の先制点と追加タイムリー打)		
"	藤江 光男 (上対馬)	
(3試合を通じて捕手としての敢闘)		
打撃賞	高田 博信 (上対馬)	
(9打席8打数4安打)		

【一回戦】 9:26～ 1時間08分 (5回コールドゲーム)

対馬やまねこクラブ	000 00	0
上対馬北斗クラブ	301 12x	7

初回、先頭が四球出塁。暴投に捕逸で三進した二死後に暴投により先取した上対馬は続く高田も歩き二三盗後に扇博と庄司の連続適時打でこの回に3点を奪った。

三回は安打の高田を三塁に置いて扇博が左犠飛。四回には死球から二盗と内野ゴロ三進後に暴投により加点。五回一死後に高田が安打し、二三盗を決めて扇博が3打点目。二盗後に庄司の左前打で還って7点差コールドが成立した。

やまねこは三回に先頭の吉田が左前打した後、暴投により二進したのが唯一の得点圏走者であった。

【対馬やまねこ】 打安点球

⑦ 梅野 時吉	2 0 0 0
⑥ 柴田 孝文	2 0 0 0
① 扇 寿 光	2 0 0 0
④② 原田 初見	2 1 0 0
③ 山城 啓 資	2 0 0 0
⑧ 渡辺 博 美	2 0 0 0
②④ 吉田 栄	2 1 0 0
⑨ 古瀬 宙	2 0 0 0
⑤ 斉藤 芳久	1 0 0 0
H5 小田保比古	1 0 0 0
犠0振2残3	# 2 0 0

【上対馬北斗ク】 打安点球

⑧ 財部 仁	2 0 0 1
⑥ 山川 理志	3 0 0 0
③ 米田 統文	3 0 0 0
⑤ 高田 博信	2 2 0 1
⑦ 扇 博 祝	2 2 3 0
④ 庄司 克啓	3 2 2 0
⑨ 宮原 安彦	1 0 0 1
② 藤江 光男	2 0 0 0
① 扇 秀 毅	2 0 0 0
犠1振3残4	# 6 5 3

【審判: 財部晃(メ)、小宮(メ)、武末(上ク)、中原(上ク)】

【準決勝】 10:53～ 1時間37分

美津島ニューベアーズ	000 202 0	4
厳原壮年ブラボー	000 000 0	0

美津島は四回一死後に連続四球を得て内野ゴロで二三塁の得点機に勝見が右前に落として2者を還した。さらに六回は代わった早田から勝見の四球と糸瀬が内野安打の一三塁に重盗を決めた後、暴投で三進後に黒岩の左前打で4点差とした。

対する厳原は初回に神宮が安打するも二死後。二回と三回には敵失と中山恵の安打などで先頭が出塁も後続無し。五回一死後の連続死四球で上位に回ったが二者が凡退。最終の七回も二死後に早田と原口が連打し、上位に期待が持たれたが快音を残した打球は左飛に終わった。

【審判: 平間友則(メ)、中原(上ク)、武南(メ)、石橋(メ)】

【美津島】 打安点球

⑧ 黒岩 到	4 1 1 0
④ 小島 一輝	4 0 0 0
⑥ 小島 和豊	4 0 0 0
② 中庭八寿彦	2 1 0 2
① 井 浩	3 0 0 1
⑦ 小川 寿浩	4 1 0 0
③ 勝見 賢次	3 1 2 1
⑤ 鳥羽 晴己	1 0 0 2
⑨ 糸瀬 友康	2 1 0 1
犠0振6残9	# 5 3 7

【厳原】 打安点球

⑥ 江口 豊優	4 0 0 0
② 江口 豊隆	3 0 0 0
⑧ 神宮 保夫	3 1 0 0
①⑦ 小山 幸照	3 0 0 0
③ 田中 敬二	3 0 0 0
⑨ 中山 貴美男	2 0 0 0
9 阿比留光二	1 0 0 0
⑤ 横松 修	3 0 0 0
⑦① 早田 光治	2 1 0 1
④ 中山 恵介	1 1 0 0
H4 原口 大輔	1 1 0 1
犠0振3残7	# 4 0 2

【準決勝】 12:43～ 1時間32分

上対馬北斗クラブ	000 010 2	3
対馬市役所壮年	000 000 1	1

上対馬は初回を除いて毎回の10安打と良く打った。だが、得点したのは五回二死から。小茂田の右前打と財部の右越え三塁打でやっと先取点を挙げた。ダメ押し点は七回で先頭の宮原が中前に、代走を送って犠打で二進後に小茂田の右越えと財部も続いて左越えに連続適時二塁打で突き離れた。

市役所も初回と二回に先頭が敵失と死球で出塁するも、後続なし。最終の七回に先頭の村井が内野安打し三塁に進んで暴投により還った1点のみ。村井の2安打のみでは得点力も薄い。

【上対馬北斗ク】 打安点球

⑧ 財部 仁	4 3 2 0
⑥ 山川 理志	4 0 0 0
① 米田 統文	4 0 0 0
⑦ 高田 博信	3 1 0 0
⑤ 木寺 裕也	3 3 0 0
④ 庄司 克啓	2 0 0 0
⑨ 宮原 安彦	3 1 0 0
R 山下 広宣	0 0 0 0
9 山城 正憲	0 0 0 0
② 藤江 光男	2 0 0 0
③ 小茂田 惣志	3 2 1 0

【対馬市役所壮年】 打安点球

⑧ 永留 秀敏	3 0 0 0
② 松尾 吉範	3 0 0 0
④ 一宮 努	3 0 0 0
⑥ 村井 英哉	2 2 0 1
③ 阿比留正臣	2 0 0 1
⑤ 内山 歩	3 0 0 0
⑦ 志賀 慶二	2 0 0 0
H 八島 啓介	0 0 0 1
⑨ 原田 武茂	2 0 0 0
H 藤島 隆之	0 0 0 1
① 阿比留隆義	3 0 0 0

【決勝】 14:38～ 1時間24分

上対馬北斗クラブ	000 000 0	0
美津島ニューベアーズ	001 014 X	6

美津島のエース井が2試合を完封した。攻めては初回と二回に二死二三塁を逸したが、三回先頭の小島一が三塁前にバント安打を決め二盗と内野ゴロで三進。中庭の遊ゴロで果敢に本塁を突いて間一髪セーフ。五回にも先頭の小島一が左前打し二盗と犠打三進後に中庭の右適時打で加点。井も左前打で続いた一死一三塁に小川の二直打が併殺打となり追加点の好機は逸した。だが、六回に勝見の右テキサス打を足場に三ゴロ悪送球や四球などの一死満塁に、小島一が試合3安打目を左中間に弾いて二者を還した。さらに二死二三塁に敵失にも恵まれて2点を追加した。

上対馬も二回と六回を除いて毎回走者を送ったが安打は全て散発の5安打で、得点圏に走者を置いた三度の好機も、井の前に凡退を喫した。

【上対馬北斗ク】 打安点球

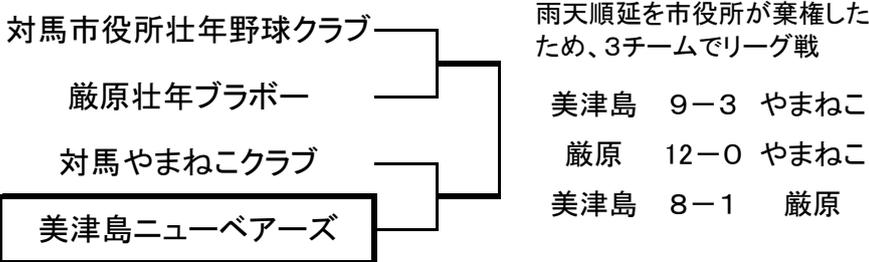
⑧ 財部 仁	3 1 0 0
⑥ 山川 理志	1 0 0 0
③④ 扇 秀毅	3 0 0 0
① 高田 博信	3 1 0 0
⑤ 木寺 裕也	3 0 0 0
⑦ 庄司 克啓	3 0 0 0
⑨ 山城 正憲	3 0 0 0
② 藤江 光男	2 2 0 0
H 山下 広宣	1 1 0 0
④③ 小茂田 惣志	1 0 0 0
H 宮原 安彦	1 0 0 0
犠3振3残6 # 5 0 0	

【美津島】 打安点球

⑧ 黒岩 到	4 0 0 0
④ 小島 一輝	4 3 2 0
⑥ 小島 和豊	3 0 0 0
② 中庭 八寿彦	4 1 2 0
① 井 浩	4 1 0 0
⑦ 小川 寿浩	3 0 0 0
③ 勝見 賢次	3 2 0 0
⑤ 鳥羽 晴己	2 0 0 0
⑨ 糸瀬 友康	1 0 0 2
犠2振1残8 # 7 4 2	

【審判：糸瀬明(制覇)、梅野(上ク)、平間(メ)、杉村(制覇)】

第4回日本マスターズ対馬予選会 20年4月20日: 厳原

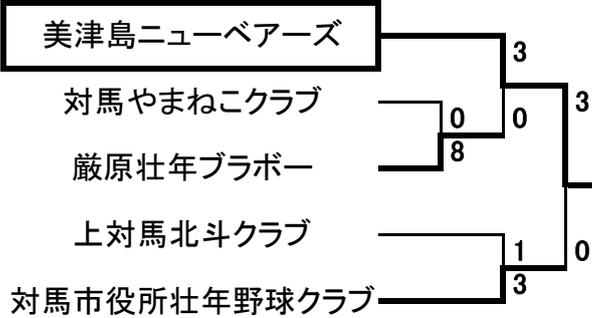


長崎県予選 6/14～ 島原市

【二回戦】 延長8回は無死満塁制

美津島ニューベアーズ	010 000 03	4
島原クラブ	100 000 04x	5

第5回日本マスターズ対馬予選会 21年3月15日: 上対馬



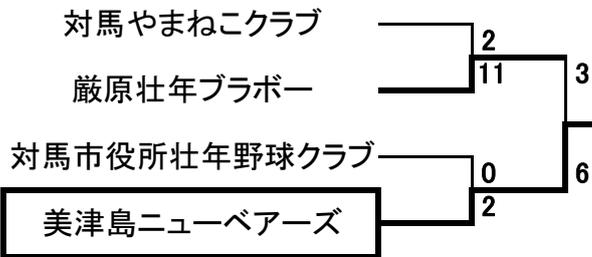
長崎県予選 6/6～ 島原市

【二回戦】

ヨシスポーツクラブ(諫早)	000 002 3	5
美津島ニューベアーズ	000 000 0	0

(優勝した島原クラブは九州ブロックで敗退)

第6回日本マスターズ対馬予選会 22年4月4日: 厳原



長崎県予選 6/5～ 島原市

【一回戦】 延長8回は無死満塁制

美津島ニューベアーズ	000 000 04	4
波佐見フェニックス(東彼)	000 000 03	3

【準決勝】

佐世保西海クラブ	001 100 0	2
美津島ニューベアーズ	200 110 X	4

【決勝】 延長8回は無死満塁制

福江クラブ	000 201 03	6
美津島ニューベアーズ	000 020 12	5

日本スポーツマスターズ軟式野球競技は平成17年富山大会が第1回で参加は16(九州枠3)だった。第2回は広島で開催され、第3回から32チーム(九州5枠)となった。九州ブロック大会は九州7県(沖縄除く)の持ち回りで、開催県は県大会優勝チームが全国大会出場でき、沖縄は単独で全国大会へ。残りの3枠を九州大会参加の6チームで決することになっている。長崎県代表チームは過去6大会において全国に出場していない。だが、本年の九州ブロック大会

が長崎県で開催(7/9～)することで、5月28日から島原市で開催の県大会優勝チームが、9月17日から石川県七尾市周辺で開催の全国大会に出場することになる。